

平成 23 年度 すぎなみ大人塾（夜）コース

第 18 回：「ふりかえり 自分の次のステップのこと」

学習支援者：広石拓司（株）エンパブリック代表取締役

平成 24 年 2 月 15 日（水） 19:00～21:00

会場：セシオン杉並 於

広石：

「大人塾で得たこと」・「ワークショップ宣言」の 2 枚の紙をもとに、みなさんにとって、この 8 か月の大人塾がどういう意味があったか、ワークショップを実践してみて何を得たか、気付いたか等を書いてください。また、これからどのようにソーシャル・アクションをしていくか、具体的に「私〇〇は、大人塾の体験を通して〇か月以内に〇〇し、今後〇年以内に〇〇をします」という形で記入してみましょう。

目標は頭の中で思っているだけでは忘れてしまいますが、書くことで自分の中に定着するものなので、是非書いてみましょう。

また、発表後に発表した紙を置くので、共感したもの・大人塾があつてこの方にとって良かった、と思えるものに付箋を貼って頂き投票していただき、投票の多かった方に 3 日に発表します。それでは、それぞれから発表して頂きます。

== 発表（各自 2 分） ==

無縁な人を集めて新たなコミュニティの場を作る、という体験を通し新たなコミュニケーションを築き、今まで気づけなかったことに気付きました。コミュニティづくりの達成感を得られたのも大きいです。テーマを共有する人たちとひとつの目標に向かって進むことは素晴らしい体験でした。

今年 4 月、私は「新しい暮らし方を考える会」を立ち上げ、コレクティブ・ハウスに類する共同生活のモデルの実現に向けてワークショップのメンバーとともに取り組みたい。

1 つの目的に皆で向かっていく過程で、皆が知恵を出し合い、協力し合い、仲間意識が育ったことが嬉しかったです。自分は考えることは得意ではなく単純なのだが、真剣に考える方々・色んな考えを持つ方々と沢山出会えて新鮮でした。講座以外の日も集まって、話し合うことでお互いを磨き合ったと思いま

す。今後のビジョンはこれから考えさせてください。

ワークショップを行うために、メンバーで何度も会いました。その体験そのものが刺激的でした。昼コースでなく夜コースを選んだのは、夜のほうが自分とタイプの違う色々な幅広い人が集まるのではないかと勝手に思ったからだが、その期待通りに色々な人に巡り合えたので、とても良かったです。

今後は、コレクティブ・ハウスのものをつくるための、またはサポートしていくための情報集めをしていきたいです。

前段階として、人と人がいつでも集まれるみんなのリビングのような場所作りを、ワークショップのメンバーと一緒にやっていきたいです。

初めてワークショップを体験し、コレクティブ・ハウスのテーマは切実な問題だと気付きました。世代の違う、色々な人と作り出していく達成感を得られました。また、参加者から自分のイメージ以上の意見が出たことに驚き、多様性を実感。何かを実現していくためには、細やかなネットワークが必要だと感じたのです。今後の日本を考えたときに、外国人との共生が課題になると思うので、空き家をもっと活用して外国人・留学生と共生できる社会をつくるために、活動していきたいです。

今まで、年寄でお役に立つことは何もない、とっていたが、自分の知っていることを話したら多少なりとも喜んで頂けて、とても嬉しかったし自信を持ってました。

3年以内に、杉並のシンボルの鳥をカワセミにしたいと思う。カワセミはきれいな川にしか住まないのですが、和田堀・善福寺にも妙正寺でもあちこちに見られるし、大宮八幡には巣を作っています。

杉並のシンボルとして認定して頂く運動をし、認定が下りたと同時に、カワセミ見守り隊を結成、写真展や、カワセミを見つける散歩の会などのイベントを開催できたらと思います。

途中で休みが続いてしまい、不完全燃焼の感があります。さまざまな年代の人がいて思っていることが違う中、合わせていくことの難しさ、発表したり発言することの苦手さを実感しました。

ワークショップを作っていく上で、誰と一緒に、どこでやりたいかを早くめなければならぬ、それをしっかり決めると、参加してほしい人が集まってくることがわかりました。印象に残ったのは社会起業家の方の講義で、まずニーズがあり、それを提供できる人、それをつなげる人、という役割のどこに自分がはまるのか、見極めが大事だと思いました。

私は、夏～秋に下井草でワークショップを開きます。10年以内に、児童館でワークショップを開催したいものです。

受講料なしに貴重な体験ができ、とても感謝しています。

目的意識をもって来ている人、目的を探しに来ている人、色々の集合体だと気付きました。町歩きを通し、メンバーや町の人とふれあうこと、話をするこの大切さを改めて知りました。ワークショップを、年齢・考え方の違う人たちと作り上げる体験が素晴らしかったです。

私は、3年以内に、3～7歳を中心に対象に杉並こどもオペラを創りたいです。

初期のカリキュラムの、アイスブレイクや仲間を知る作業等、本当に役に立つのか疑問に思っていました。後々、座学が大変勉強になっていたことがよくわかりました。

町歩きでインタビューをしたことや、調べたことのなかった地域を調べたことで、改めて知らなかった杉並の良さに気付きました。ワークショップの課題探しのときは、皆さん本当に課題を探して見つけたのだなと実感しました。

その中で、自分の課題が選んでもらえたことは光栄だが、未だに重圧でもあります。ワークショップは、皆で積み上げて達成できました。皆でやることの楽しさや皆の笑顔が一番印象に残っているが、何がもっと大事か自分に返って考えると、努力している人を理解し尊重することが足りなかったと思います。何か始めるときは、人に気遣いをして支えていくことをしなければ。

私は、8月に「ふるさと井草まつり」を実現し、5年後には新しい杉並の風物詩ができますので、お楽しみに！

まず大人塾に入ったこと自体が、ソーシャル・アクションだったと思います。知らない人が集まって、縁が生まれ、今後もつながっていくのが素晴らしいです。町歩きで、初めて自分の住んでいる町をゆっくり歩きました。とても楽しかったので、これからはゆっくりと町を見ながら過ごしてゆきたいです。今までは、ワークショップを受ける側だったが、やる側になって見えてくるものがありました。

双発的・自発的に、蟻が蟻塚を作るように、自然に作り上げるようなコミュニティが芽生え、それが地域の活性化につながっていくと思う。

7~8月あたりに、井草ふるさとあかりまつりを実現させたい。今後いろんな方巻き込んで進めていきたい。3年以内に、最低3つのコミュニティを作っていく活動の支援をしたい。

共同作業のプロセスすべてが貴重でした。やってみることで発見がある、体験は一見にしかずだと強く思いました。ふり返りの機会があったことで、皆さんの話を聞いたこともとてもよかった。話を聞いて、つながろうとすること、それを心がけようと努力することが大事だと感じました。

私は、秋頃までに、自分のやっていることの基礎を固め、自信を持てるようになりたい。3~5年の間に、生まれ故郷の東京と、今お手伝いをしている気仙沼で「まちのものがたり」を作りたいです。長期スパンでは、自分のふるさとと思える場所を見つけたいです。

それぞれの講座、町歩き、ワークショップを通して、自分の生活の選択肢が増えて嬉しかったです。また、ここに集まっている様々な人たちが、杉並とそれぞれ関わりを持っていて、羨ましいと思った。故郷の新居浜には思い入れがあるが、杉並には長く住んでいてもそれほど愛着を持っていなくて悩んでいた。杉並を愛している皆さんと知り合えて嬉しかったです。地図作りのワークショップで、地図の概念が取り払われ、とても面白かったので、もっと深めていきたいです。色んなテーマで地図を作って、どこか人目があるところに展示してもらい、反響を得たいです。郷土史が好きなので、勉強していき自分のテーマが決まったら、皆さんを巻き込んでアクションを起こしたいです。

まず、チームの能力のある人たちと接せられたことが一番の感激でした。ワークショップを立ち上げ実践し、企画・広報・資料作り、と色々な準備作業があったが、自分はほんの少ししか関われなかった。皆さんは、すごいスピードでどんどん進めて、大変良いワークショップができたと思います。その過程すべてを見ていられたことが、一番大きい体験でした。大人塾には、こんなことをしようと参加した人、漠然と参加した人、色々だが、目標を持って事に当たったほうがおもしろくなると感じました。皆さんの素晴らしい能力を見ていて、自分のしたいことをもっと掘り下げて考えて行かねばならないと思いました。20年近く絵を描いているが、デッサンをやり直そうと思います。

今回のグループ活動では、前向きで緩やかな活動から、確かな可能性の芽が生まれる、ということを実感しました。8月の、あかりまつりのときに、地域の活性化を結びつけた朗読会を開催したいです。また、私は3年以内に自分自身の朗読のスタイルを確立したいです。

世代を超えた人との出会いが非常に刺激になった。自分のワークショップの企画が取り上げられ、それが負担にもなった。話すことはできるが、まとめる力がつくづく衰えたと感じました。仲間たちに助けられながら、何とかついていけました。沢山のひとたちが、自分たちの存在を確かめ、楽しく暮らしたいと願い、人とのつながりを求めていると非常に強く感じたので、つながり作りで自分のやれることで貢献できればと思います。今後は、コレクティブ・ハウスの活動に関わり、手伝っていきたいです。また、ライフワークである五日市大人遊びの会、五日市杉並村のことを、5月に店を出して、広くみなさんに広報し、自然と人の絆を深める仲間を増やしたいです。杉並とあきる野の交流もやりたいですし、この活動を次世代へと引き継いでいきたいです。

多くの方と交わりの機会があり、刺激を受けたり、知らないことを教えてもらって感謝でいっぱい。町歩きやワークショップでは、ぶつかったり対立し合ったりもしたが、その分楽しさや達成感も大きかったです。どうなることかと思っても、最後は何とかなると分かったし、自分で出来なければ誰かにやってもらえばよい、やってもらえるし励ましてもらえる、また、自分の意見を適切に言っていかなければいけないということが気付きでした。

今、特に関心があることは防災と子育てなので、地域で防災に関わることに参加したり、子育て支援活動を体験して、今後につなげていけたらと思います。

3年後に出来るか分からないが、店を開きたいと思っているので、自分の関心のある「食・酒・旅・本・子育て」をテーマに追求しながら、人が集まれる場所づくりにつなげていきたいと思っています。

絆交流カフェをワークショップで実践したが、毎回問題が多発し、タイトルも二転三転し、色々なことがあり苦労したグループでした。年末頃から、自分の意見も言い相手の意見も聞くという流れができ、スムーズに物事が回るようになった。最終的には、ゲーム・折紙・アイスブレイク・健康体操、と別々なジャンルを敢えて取り入れ、色んな切り口からのコミュニケーションづくりを試行しました。

結論は、人のためにコミュニケーションのきっかけづくりをしようとしていたが、コミュニケーションを円滑に進める術を自分たちが学べた、と気付きました。今後は、あかりまつりに合流させてもらおうと思います。また、私事だがバウンド・テニスの関東代表になったので、杉並にバウンド・テニスを広める活動もしていきたいです。

ワークショップで、何かをやりたいというより学びたいという気持ちで参加しました。皆さんの、思いの深さ、多さに感心させられ、意識の高さを痛切に感じました。杉並に20年住んでいるが、町歩きで行動エリア外のところを知ることが出来て良かったです。一方、外に向けてアクションを起こすという考えを通じて、自分の内にも目を向ける考え方も持つようになりました。

ここ2・3年、家族や親しい人が亡くなるが多かったので、今は外に向かうよりも、家族を理解して、相手の気持ちを考え相手を主役に考えられることが大事だと思っています。

自分の場合は、「杉並大好き」のスタンスで参加。地域への関心だけが共通で、今まで全然知らない人たちと知り合えたこと、ワークショップや町歩きを企画したことも思い出深いです。改めて、人には様々なバック・グラウンドや価値観があることに気付きました。地域の方々とのコミュニケーションを実践できたのも良かったです。30代で、もう若くないと思っていたが、まだまだ若い、勉強できると思えたのがありがたいです。井草ふるさとあかりまつりを通して杉並地域の方々と交流を広め、4年後に何かイベントを実現し、継続し形に残して、地域社会にもっと関わられる仕事に就きたいです

広石：

それでは、みなさんで共感した・応援したいと思う人に投票してください。上位4名が、3月3日に「大人塾を通して気付いたこと」を発表することに決定です。事務局の方にも、今年の感想を聞いてみまじょうか。

事務局：

今期は例年よりとても早く感じた。内容が濃厚で皆さんの自主性が高かったと思います。事務局としては、皆さん同士で関係を築いていってほしいので、ある意味では、面倒見が良すぎないようにしていました。大人塾は2005年から始まり、ずっと交流が続いています。OBの中からも仲間を見つけることができるので、未永くつきあってくださいね。

広石：

ワークショップも町歩きも、どちらも参加者のみなさんの力で上手くいったと思います。荒川区のコミュニティ・カレッジや他の地域の行政の方が見学に来られていましたが、みなさん、なぜそんなに出来るのかと驚かれます。発表いただいた「気付き」に関して、殆どの方が実践の場のことを述べていたことが、皆さん自身で学んだということを表わしていると思います。自分のことばかりではなく、実践の中で体感したことを伝えているのは、学びを外に出して、共有していることになりませんが、それがさらにみなさん同士の中で気付きを促していると思います。

2年前に社教より、大人塾をやってみないかとお話を頂いたとき、「地域でアク

ションを起こせる人が増えてほしい」と常々思っていたので、杉並地域でそのことにチャレンジ出来るとおもって、お受けいたしました。

また、大人塾では「講師」ではなく「学習支援者」と呼ぶのが良いポイントだと思っています。自分たちの力で皆さんは学び、支援者はそれを支える。

皆さんが、最後のワークショップだけ印象に残っているのではなく、町歩き等も挙げていたので、1年を通しての過程が根付いているのを感じ、支援者として嬉しかったです。

改めて社会教育についてお話しすると、1949年に社会教育法が施行されましたが、当時は、民主主義、自治を皆でディスカッションして学ぶことが大きなテーマでした。時代が下るにつれ、生涯教育といわれ始め、生活のゆとりの部分の趣味を学ぶことが中心になっていきました。さらに時代が下り、情報化社会となる一方、地域社会は崩壊していく現代では、「自分たちで地域社会をどう作るかが社会教育のテーマ」と認識され始めています。杉並はそのことにいち早く気付いたのが、すごいところですね。

今回、自分で企画して運営し、大小様々な危機はありましたが、どのグループも乗り越えてこられました。現実社会では、避けてしまいがちな価値観が違う者同士の意見の交換なども、ワークショップでは、安心して、価値観・意見の違う人とぶつかることができます。このような場所をもっと作っていきたいです。

また日本は、戦後、特に経済成長後、社会をつくる「市民」でなく、「消費者」になり、使う権利ばかりを主張する人が増えてきました。公共サービスに対しても誰かが何か良いことやってくれればよいのにと受け身の立場です。「消費者でなく、作る側にまわる」

主催・運営しようという立場になると、社会や地域の色々なことが気になり始め情報が一気に押し寄せるようになってきます。関心を持てば、いくらでも情報は入ります。また、作る側になれば、自ずと関心が生まれます。チュニジアなど、革命後の中東、アジアでは、これから街作りが行われます。日本の公民館活動がモデルとなり、アジアではC L C (Community Learning Center) が普及しています。いま、ここで皆さんの取り組んできた1つ1つの小さなことが実はとても貴重で、それがグローバルに関係していくのです。実践してきたこ

とこれからも続けて、積極的に情報発信していきましょう。私からは以上です。みなさん、ありがとうございました。